

意識改革で平和な世界へ

(原文)

弓削 勇人 (14 歳)

東京都

東京学芸大学附属世田谷中学校

この作文を書くときに「平和」から連想したものがいくつかありました。平和といえば鳩、鳩といえば動物、動物といえば生物、生物といえば地球、地球といえば海と考え、生命の誕生した地球の原点ともいえる「海」に関連づけて書こうと思いました。

僕は中学生になってから何回かビーチクリーンのボランティア活動に参加して、海にあるゴミの多さに驚きました。海には、お菓子の包装紙やペットボトルなどのゴミが沢山あります。粉々になり、砂にまみれたマイクロプラスチックの多さにも愕然としました。それを地道に拾うのは楽しくなく、苦痛でつまらないと最初は思っていました。しかし、実際に参加してみると色々な事に気が付きました。まず、リーダーの言葉が印象的でした。「ゴミ拾いが地味で楽しくないと思っている人もいるかもしれないけれど、それを楽しくすることが大事」。実際にやってみると、ゴミを拾って少し海がきれいになったという達成感があり、楽しみながらゴミ拾いが出来ました。そこで僕は、「つまらない、地味だ」などは偏見であって、実際にやって知ることによって印象が変わると分かりました。また、リーダーはこうも言っていました。「一人じゃ何もできないけれど、誰かが始めないと何も変わらない」。その言葉に背中を押されて、自分も何かを実際にやってみようと思いました。

何かできることはないかと考えていた時、海のお掃除ロボットコンテストがあることを知り、応募してみました。海を掃除するロボットを考える一方で、そもそも「ゴミを減らすにはどうしたらいいのか？」を考えました。そこで、重要な事に気が付きました。海をきれいにするには二つの事が重要です。まず一つ目は人の意識改革です。「今、海はどうなっているのか？」「なぜこのような問題が起きているのか？」に興味を持ち、現実を知ることによって、ポイ捨てが減るのではないかと思います。「知ることによって変わる」これもまたリーダーの言葉でした。二つ目は、ポイ捨てされたゴミを回収する方法と、資金が必要だということです。捨てられたものが放置されたままでは地球が汚れていく一方だからです。

一つ目の意識改革を促進する案は、「クリーン予報」をニュースで放送することです。海の環境がどうなっているか、川や海にあるゴミがどこに多くあり、どこがポイ捨て問題について改善されたか、されてないかなどを数値化し、天気予報のように毎日放送します。それを知ることによって、人々のポイ捨てに対する意識を変えていきたいです。毎日お天気を気にするように、海のクリーンについても気にかけるようになって欲しいです。二つ目のゴミを回収し、資金を募る案ですが、企業に「クリーン

予報」のスポンサーになってもらいます。クリーン活動に参加していると宣伝することで、企業のイメージも上がると思います。また、数値を見て、ポイ捨て環境が悪い地域から資金を募ります。そうすることで、ゴミの多い地域も環境改善に尽力するようになると思われます。

意識改革には発想の転換も必要です。楽しみながら問題解決に取り組めば、子どもや若者も興味をもってくれると思います。ゴミ拾いを考えるワークショップに参加した際、ユニークな取り組みを知りました。タピオカブームで飲み終わったカップの放置ゴミが増加した際、かわいい専用のゴミ箱を設置したり、競技場でラグビーボール型のゴミ袋を配り、ゴミを入れたボールでトライする企画をしたら、ゴミが激減しました。このように、働きかけ次第で意識が変わり、行動も変わります。

世界のあらゆる問題も、意識を変えれば見える景色が変わってくるかもしれません。小さなことでも行動に移し、それが波及することで、平和でより良い世界を作っていけたらいいなと思います。